



●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



つば九郎の田んぼで田植えイベントを開催
●5月18日 燕市役所前の田んぼ

スワローズライスファームの田植えイベントが開催され、県内外から合計69人の参加者が集まりました。「植えろ！植えろ！真中！」と替え歌コールが響き渡る中、元スワローズ監督の真中満さんも一緒に田植えを楽しみました。



吉田天満宮祭礼
●5月24日・25日 吉田上町・中町・下町、吉田学校町

吉田の天神様として親しまれている吉田天満宮。5月24日・25日の吉田天満宮祭礼では140店舗を超える露店が並びました。両日とも子どもや家族連れが続々と訪れ、大変賑わいました。



県内初！小中学校体育館に移動式空調機を導入
●6月7日 吉田中学校

近年の記録的な猛暑を受け、市内全小中学校の体育館に、移動式空調機複数台を配備しました。全ての小中学校に移動式空調機を配備する事業は県内初で、早速子どもたちは運動の合間にクールダウンをしていました。



**エスティー・エスティー
SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業に選定**
●5月23日 内閣府 中央合同庁舎

燕市の「ものづくり」を核とした持続可能な地域づくりを目指していく内容の提案が、地方創生SDGsの達成に向け優れた取り組みとして、内閣府より「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。



オリンピックの思いを子どもたちに
●6月3日 燕北中学校・吉田中学校

燕市PR大使で、マラソン選手として3度のオリンピックで活躍された宇佐美彰朗さんが獲得した貴重なトロフィーなどを市に寄贈してもらいました。燕北中学校と吉田中学校の2校で贈呈式が行われ、子どもたちにエールをいただきました。



アルビ応援給食を市内小中学校で初提供！
●6月11日 燕中学校

アルビレックス新潟のチームカラーであるオレンジ色の料理やデザートを使った「アルビレックス新潟応援給食」。給食の提供に合わせて、島田選手、石山選手から「食」をキーワードにしたメッセージ動画をいただきました。



アルビレックス新潟の島田選手です。僕は昨年より「燕市子育てサポーター」に就任し、燕市が推進する子育て支援のPRをお手伝いさせていただいています。機会をいただき、こちらでコラムを書く機会をいただきましたので、「燕市」について僕の想いを書いてみたいと思います。

アルビレックス新潟 島田 選手

茨城県出身。ポジションはミッドフィールダー、背番号20。日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）理事も務める。趣味は読書とコーヒー。

職人気質、頑固…… そんな燕市のイメージを変えたもの

皆さんは、自分のまち「燕市」について、どのようなイメージを持っていますか？
言わずもがなですが、燕市といえば「ものづくりのまち」「職人のまち」。そこから連想していた僕の勝手な燕市に対するイメージは、「伝統や歴史を重んじる保守的なまちかな」「職人気質で、無口で頑固な人が多いのかな」という漠然としたイメージでした。
しかし、新潟に来て燕市と関わるようになってから、僕の燕市に対するイメージは、大きく変わりました。
特にそのきっかけとなった3つのエピソードをこれから紹介していきます。
1つ目は、新型コロナウイルス禍の2020年に目にしたニュースです。
緊急事態宣言により帰省を自粛した燕市出身の学生に対して、燕市からお米やマスクなどの応援物資をプレゼントしたというニュースでした。
故郷に帰りたくても帰れない学生たちからすれば、応援物資はもちろん、故郷との繋がりを感じられたことが、何よりうれしかったのではないのでしょうか。子育てサポーター就任前でしたが、**燕市の心温まる取り組みは、とても印象的でした。**
2つ目は、僕の家にある「メイドインツバメ」です。もちろん子育てサポーターに就任してから頂いたり購入したものもあるのですが、それ以前から燕市を意識せずに購入していたり、ふるさと納税の返礼品として頂いたものもあります。それらすべてに共通する特徴は、無駄な機能や装飾が少なくシンプルであること、主張が少なく飽きのこないデザイン、そして何より使いやすいと丈夫さ、だと感じます。たくさん売ってや

ろうというよりも、使う人の側に立って、その使い心地や使いやすさ、長く愛用できるものを作るんだ、という職人の心意気が伝わってくるものばかりです。
そして最後の3つ目は、燕市役所の雰囲気です。僕が燕市役所を訪ねるたびに、鈴木市長をはじめ、そこで働く皆さんがいつも温かく出迎えてくれて、笑顔で声をかけてくれます。市役所とは思えないアットホームな雰囲気を感じます。子育て支援をはじめ、新しいことに挑戦する姿勢や、先に書いた学生への心温まる取り組みも、こんな素敵な職場だからこそ生まれるのだと思います。



人と人を繋げる「思いやりのまち」

燕市と関わるようになって数年を経過した今、僕の燕市に対するイメージは「思いやりのまち」です。
困っている人を助ける思いやり、子どもや子育てに寄り添う思いやり、使う人のことを第一に考える職人の思いやり、笑顔や温かい言葉から発する無意識の思いやり。
現代社会では身の回りのことがどんどんデジタル化していく中で、人と人を繋げる思いやりは、どんな希少価値の高いものになっています。
だからこそ、そんな思いやりが詰まったこの燕市は、本当に素敵なまちだと思います。
そして、その思いやりの伝播によって、これからも燕市がどんどん温かく住みやすいまちになることを願っていますし、そこに少しでも貢献できるように、僕もサポートを頑張ります！

燕市役所に訪問。実はこのジャケットの裏地、オレンジ色なんです▶